

静岡・沖縄を語る会 映画と講演の集い

藤本幸久監督ドキュメンタリー作品

ワンショット **One Shot** ワンキル **One Kill** 《一撃必殺》

どこから来た誰なのか?—沖縄の海兵隊

「イラク、アフガニスタンへ兵士を送り続けるアメリカ。

若者たちは、なぜ兵士を選んだのか?

沖縄に来るまでに、どんな訓練を受けてやって来るのか?

アメリカ海兵隊、ブートキャンプの12週間。」

《2009年/108分》

たかえきまもれ!



◆ 上映と藤本監督の講演

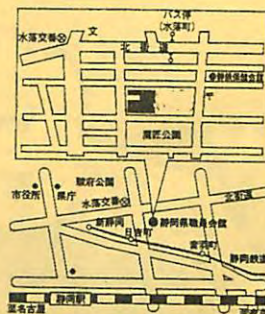
沖縄・米海兵隊「北部訓練場」の一部返還に伴う東村高江のヘリコプター着陸帯（ヘリパッド）移設工事が昨年の暮れから沖縄防衛局によって強行されました。高江は約160人が暮らすヤンバルの小さな集落です。この集落を囲むように6ヶ所のヘリパッドを造る工事が行われるのです。新型軍用ヘリ「オスプレイ」も配備されようとしています。現在、ヘリパッド予定地周辺で樹木を伐採したり、砂利袋の運搬作業などが行われたりしていますが、高江の住民や支援者によって阻止闘争が関わっています。これらの工事は、地域の人たちの生活を支えている自然を破壊し、人々の生活を根底から脅かすものです。絶対に容認できません。また、ここで訓練を受ける海兵隊員はアジア諸地域や中東に派遣され、侵略、殺戮を行う兵士となるのです。沖縄に駐留する海兵隊員とは誰なのか。殺人マシンと化す海兵隊の内実をうかがい知ることのできる必見の一作です。

2011・3・3 (木) 18:30~21:00

会場: 「もくせい会館」2階・第1会議室

参加費: 1000円

藤本幸久さんドキュメンタリー映画監督
「語られなかった戦争—侵略・マレー半島」「Marines
Go Home 2008 一辺野古・梅香里・矢白別」「アメリカ
戦争する国の人びと」「アメリカばんざい」他多数



● 静岡もくせい会館

主催: 静岡・沖縄を語る会 〒424-0038 静岡市清水区西久保300-12

Tel・FAX 054-367-0673 富田気付

辺野古を考える—全国上映キャラバン★影山あさ子プロデュース／藤本幸久監督★

ワンショット **One Shot One Kill** 《一撃必殺》

沖縄から、海兵隊が、イラクやアフガニスタンへ送られる。ファルージャ攻撃にも、遠征軍2,200人が、沖縄から出撃した。イラク人7,000人が犠牲になり、50人の海兵隊員が戦死した。戦死者が出ると、沖縄の海兵隊基地の星条旗は半旗になる。

沖縄で見かける海兵隊員たちは、とても若い。高校を卒業したばかりだろうか。凄惨な戦場とは、あまりに不釣り合いな幼顔をしている。

彼らはどこから来た、誰なのだろう。なぜ、ここにいるのだろう。彼らの幼い顔を見つめながら、アメリカへ行くこと決めた。

パリスアイランド(サウスカロライナ州)のブートキャンプ(新兵訓練所)には、毎週、500人の若者たちがやってくる。彼らは、特別な若者ではない。「大学に進学したい」「良い仕事に就きたい」「社会に貢献したい」と軍隊に志願するごく普通の、そして大多数は貧しいアメリカの若者たちだ。



深夜にバスで到着するや否や、教官たちに怒鳴り散らされながら12週間の訓練に突入してゆく。

深夜に到着するには訳がある。疲れさせるためだ。到着後、48時間眠ることが許されない。「疲労と衝撃が、民間人から兵士への変容を容易にする」と教官たちは言う。

「返事は!」「Yes,Sir!」「声が小さい!」「Yes,Sir!」「叫べ!」「Yes,Sir!!!」深夜の基地に若者たちの悲鳴と絶叫が響く。



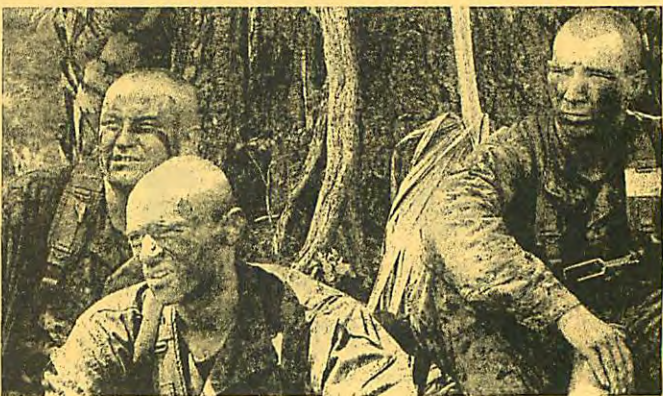
最初に教えられることは、「口を閉じよ、疑問を発するな」ということ。髪を剃られ、制服に着替え、「私」という言葉を禁じられ、個性の一切と思考を放棄させられる。そして、卒業まで、何万回も同じ事を繰り返す反復訓練。

一言で言えば、その教育は、①洗脳と、②肉体の記憶づくりである。命令には、疑問を持たず直ちに従う人格形成と、考えなくても命令どおりに動く肉体作りだ。沖縄に送られてくるのは、無意識でも人を殺せる技術を身につけた若者たちなのだ。素手で殴り殺し、銃剣で刺し殺し、ライフルで撃ち殺す。

沖縄の海兵隊員たちの顔が、それでも、なぜ幼く、屈託なく見えるのか。それは、彼らが、まだ人を殺していないからだ。戦場は、沖縄の先にある。

人を殺したら、元の自分には戻れない。

Marines Go Home (海兵隊はアメリカへ帰れ)、一日も早く。



One shot One kill ■日本/2009年/カラー/ビデオ/108分
企画・製作 ■ 森の映画社 / プロデューサー ■ 影山あさ子 / 監督 ■ 藤本幸久 / 撮影 ■ 栗原良介 / 録音 ■ 久保田幸雄 / インタビュアー ■ 影山あさ子 / 編集 ■ 藤本幸久・栗原良介 / 音楽 ■ 川端 潤 / 音楽制作 ■ エアプレーンレーベル / コーディネーター ■ 福原顕志・加藤鈴子 / 字幕 ■ 影山あさ子 / 協力 ■ Lara Cushing / 録音スタジオ ■ 協映 / 配給 ■ 影山あさ子事務所 / 著作 ■ 森の映画社
カトマンズ国際映画祭、イスタンブール国際ドキュメンタリー映画祭正式出品作品

